

いろは親水公園の自然

いろは親水公園は志木市役所前の新河岸川と柳瀬川の合流点にあり、水辺を中心に斜面林やカヤ原、桜並木など豊かな自然にかこまれています。江戸時代から明治にかけて新河岸川舟運で栄えた場所で、かつての舟運をイメージした舟着き場が設けられ、移築された明治10年築の村山快哉堂、江戸・昭和・平成の三時代の堤防など歴史遺産も多く、イベントや散策を楽しむ人、家族連れが多く集まるにぎわいのある場所です。

新河岸川と柳瀬川の合流点

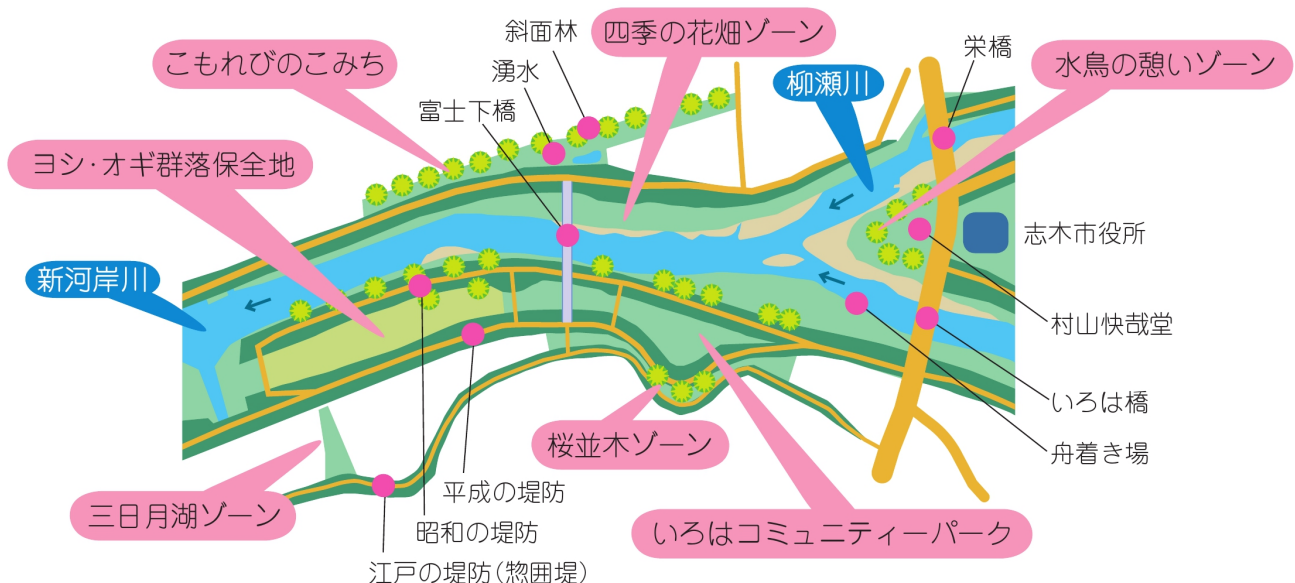
この地点では合流する両河川の違いを見ることができます。柳瀬川は狭山丘陵から武蔵野台地を流れ落ちているので流れが速く、川底の砂礫



富士下橋から合流点付近を見る

を削り志木周辺で堆積させます。川底に砂礫が多いので水が澄んでいます。いっぽう新河岸川は台地と接する荒川低地の縁をゆったりと流れており、川底は泥質で水が濁っています。水質は下水処理水の流入がない新河岸川の方がわずかに良い傾向にあります。

また、新河岸川は隅田川を経て東京湾に流れ込んでいますが、標高差



が少ないため、この合流点あたりは潮位の影響を受け、一日に2回水位が上下します。

こもれびのこみち

武蔵野台地と荒川低地の境にあたり、急斜面が形成されています。その斜面にはクヌギやムクノキ、ミズキなどの大木が茂り、斜面下には湧水と、湧水を溜めた池があり、ときどきカワセミも訪れます。エコシティ志木では、こもれびのこみち斜面林の手入れとゴミ拾いを行っています。

ヨシ・オギ群落保全地

富士下橋下流の1ヘクタール弱は湿地を代表する植物ヨシ・オギ群落保全地で、夏の渡り鳥オオヨシキリ(準絶滅危惧)やカヤネズミなどが繁殖しています。草刈りは、かつてのヨシやオギなどのカヤ原の管理にならい冬期に実施しています。エコシティ志木では、保全のためにオオブタクサなどの外来植物駆除を行うとともに、カヤ原を楽しむイベントを開催しています。



こもれびのこみち斜面林下の池とあずまや



こもれびのこみちの湧水



オオヨシキリ



ヨシ・オギ群落保全地の秋